

日本安全教育学会第 17 回徳島大会に参加しました(2016/9/24-25)

テーマ：安全教育、防災教育
場所：徳島大学理工学部

2016年9月24-25日、徳島大学理工学部において「安全教育研究を通じた危機管理文化の醸成と人材育成」をテーマに日本安全教育学会第17回徳島大会が開催され、約100名が参加しました。同大会では、年次学会長の徳島大学 中野 晋 教授による「四国で始まった学校防災・危機管理人材養成プログラムについて」の講演、名古屋大学の福利伸夫 減災連携研究センター長による特別講演「巨大地震を前に皆をその気にさせて克災し未来を拓くには」が行われました。いずれも、防災教育を通じた人材育成の重要性が強調されました。また、25件の安全教育に関する研究発表が行われ、その内、19件が防災教育に関する発表となりました。

本研究所からは佐藤 健 教授と桜井 愛子 准教授（情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野）が参加しました。佐藤教授は「防災教育のための地域に根ざした歴史資料の価値」、桜井准教授は「復興・防災マップづくりプログラムの中学校における適用と課題」と題する発表をそれぞれ行いました。シンポジウム「南海トラフ地震に向けた学校防災教育のあり方を考える」では、佐藤教授がコメンテーターとして参加し、香川県立盲学校、徳島県阿南市立津乃蜂小学校、愛媛県愛南町立城辺小学校、高知市立城西中学校の取組実践の発表に対する講評を行いました。



発表の様子（佐藤健教授）



発表の様子（桜井愛子准教授）



シンポジウム（中央：佐藤教授）



会場の様子

文責：佐藤健、桜井愛子（情報管理・社会連携部門）